

ともに歩むひと

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2550号
(2010年10月22日発行)より

2008年10月26日、私は、日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」の、5周年記念パーティーをひらきました。

このとき、どうしても、たくさんのひとにきていただきたかった理由がありました。それは、結婚50周年を迎える両親を北海道からまねき、「生んでくれて、ありがとう」のことばを伝えたかったから。

北海道から九州まで、実に、60名あまりのかたが、駆けつけてくださいました。スタッフ、ゲストのかたを入れて、80名を越すかたがたが、両親を、拍手で祝福してくださいました。

それらすべてのひとに助けていただいて、もしかしたら、生まれてはじめて、私にも恩返しのできたかなあと、そんな気持ちにさせてもらったのです。

あのとき、私は、本当に気づくことができました。両親が、無償の愛情で、私を育ててくれたのだということ。

長いあいだ、私は、母に対する負い目をぬぐうことができませんでした。たとえひとからどんな評価をもらえても、私の生きかたは、母を満足させることはできないのだと。

なぜなら、母の願いは、「娘が結婚して、子どもを産んで、幸せな家庭をつくること」。そのどれひとつとして、私は、実現させてはいなかったから。

でも、それは、まちがいでした。パーティーの席で、母のメッセージを聴いて、それがわかりました。母は、ただ、私に、幸せになってもらいたかっただけなのです。それを表現するのに、「結婚して子どもを産んで…」ということばしか知らなかっただけなのです。

あのとき、母の掛け値なしの愛情を、まっすぐに受け取ることができ、それ以来、母との関係がちょっとだけ変わりました。

母と娘の、他愛のないおしゃべりが、ちょっとはできるようになったのです。決して仲は悪くはないけれど、それまでは、用件だけのやりとりのほうが多かったのです。

7周年の今年、記念企画イベントに、私は、子どもたちを、ゲストにまねきます。両親からたくさんの愛情を受け取った私にできることは、これからを生きる子どもたちが、より自分らしく、より生き生きと生きていくことができるように、このたくさんの愛情をふくらませ、わかちあうプロジェクトをつくること。

そのために、子どもたちを応援するおとなたちも、ゲストにまねきます。この未来に向けたプロジェクトを、ひとりのちからではなく、もっとたくさんのひととともに、育てていくために。

そう考えたときに、すべての子どもたちが、私にとっての子どもたちになります。志を同じくするすべての仲間たちが、私にとってともに歩むひとになります。そして、この子どもたちと、仲間たちにつ

ながるすべてのひとたちが、私にとってもつながるひとたちになります。

そう。すべては、つながっています。すべてひっくるめて、ひとつの循環のなかにあります。

つながりのなかにあることを知るとき、私たちは、ただ、愛に満たされて生かされていることを知るので。ただ、それを受け取り、手渡していけばいいのだということを知るので。

今日は、ころをあらたに、その一歩目を踏み出す日です。ともにつながりを感じていただけたら、そして、この、ともにあゆむ志に共感していただけたら、こんなにうれしいことはありません。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2010年9月**、**2500号**達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>